

彙 報

会 長 窪 蘭 晴 夫

——常任委員会——

2016 年度第 1 回常任委員会

日 時：2016 年 5 月 28 日(土)11:00～17:00

場 所：東京大学本郷キャンパス 文学部 3 号館 6 階 3604 室

出席者：窪蘭晴夫(会長), 有田節子, 井上 優, 上山あゆみ, 加藤重広, 小泉政利, 小林正人, 斎藤 衛, 玉岡賀津雄, 吉田和彦(以上, 常任委員), 野田尚史(事務局長)
オブザーバー：金水 敏(編集委員長), 佐々木冠(大会運営委員長), 須田孝司(広報委員長), 佐久間淳一(夏期講座委員長), 金城由美子(事務局委員)

(欠席：内藤真帆 事務局委員)

[報告事項]

(1) 今期の組織・役員について

- ・今期の組織・役員が資料によって確認された。新編集委員として高野祐二氏が加わったことが報告された。会員数に比して女性役員が少ないので、女性役員の比率を上げていく方針が確認された。

(2) 今後の大会開催予定について

- ・以下の予定が報告された。
第 152 回大会 (2016 年春季大会)：2016 年 6 月 25 日～26 日, 慶應義塾大学三田キャンパス (大会実行委員長：井上逸兵氏)
第 153 回大会 (2016 年秋季大会)：2016 年 12 月 3～4 日, 福岡大学 (大会実行委員長：江口正氏)
第 154 回大会 (2017 年春季大会)：2017 年 6 月 (予定), 首都大学東京
第 155 回大会 (2017 年秋季大会)：2017 年 11 月 (予定), 立命館大学衣笠キャンパス
第 156 回大会 (2018 年春季大会)：2018 年 6 月 (予定), 東京大学本郷キャン

パス

第 157 回大会 (2018 年秋季大会)：2018 年 11 月 (予定), 京都大学

(3) 2016 年度科学研究費研究成果公開促進費について

- ・研究成果公開促進費(国際情報発信強化)に応募したが, 不採択であったことが報告された。

(4) 各種委員会からの報告

- ・本彙報の各委員会の項目を参照。

(5) 言語系学会連合からの報告

- ・言語系学会連合運営委員である小林正人氏より, 今年度言語学会は事務局担当学会として国立国語研究所と共催で, シンポジウム『オノマトペの魅力(仮)』(2017 年 1 月 21 日(土) 学術総合センター)を開催すること, 6 月 19 日に加盟学会の意見交換会が行われる予定であることが報告された。

(6) 事務局からの報告

1. 彙報原稿の締切

原則として 7 月末, 1 月末とする。

2. 彙報の電子化とオンライン公開について

中西印刷にある PDF を利用し, 個人情報などを消去して公開する。

3. 『言語研究』掲載論文のオンライン公開について

149 号より発行後即時オンライン公開とした。ただし, 一定期間は会員数などへの影響を注視する。

4. 『言語研究』の公開入札について

昨年度と同様, 今年度も実施の予定である。

5. 会費滞納者への督促について

昨年度は, 常任委員による督促を含め様々な方法で督促を行い, 会費の納入率が改善した。

6. 学術用語集について

国立情報学研究所から J-GLOBAL (<https://jglobal.jst.go.jp/>)へ移行した。

(7) 常任委員の今年度の役割分担について

- ・前年度からの役割分担に加え, 言語系学会連合事務局の担当者, 学会賞選考委員

- 会の発足に伴う各部門の担当者が確認された。
- (8) 日本言語学会大会発表賞の選考結果について
- ・大会発表賞選考小委員会の推薦に基づいて第151回大会(2015年秋季大会)における大会発表賞が以下のように決定したことが報告された。
- 窪田悠介氏「言語理論研究における「ツール」としての範疇文法」
- (9) 熊本地震の被災者に対する会費免除について
- ・平成28年度熊本地震の被災者に対し、5月20日より2017年3月31日まで会費免除申請を受け付けていることが報告された。来年度も実施するが、申請期間は4月～9月とすることが確認された。
- (10) CIPL文献リスト作成作業について
- ・前年度に引き続き、文献リスト作成を平子達也氏に依頼することが報告された。
- (11) 日本学術振興会育志賞について
- ・今年度は準備が整わなかったため推薦を行わないが、人文学分野からの応募が増えれば同分野からの受賞が増え若手育成につながることから、来年度は推薦を行うことを確認した。
- [審議事項]
- (1) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトの事後評価について
- ・プロジェクト代表者により提出された研究報告書および経理報告書の確認を行い、承認した。
- (2) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト(採否)について
- ・2件の申請について、メール審議で指摘された問題点が修正されたことを確認し、風間伸次郎氏「世界の言語で読むle petit prince」、井上逸兵氏「少数話者(危機)言語の研究支援と言語の多様性に関する意識啓蒙」の採択を決定した。
- (3) 2015年度決算について
- ・2015年度決算書を検討し、それを承認した。
- (4) 2016年度予算について
- ・2016年度予算について審議し、予算案を作成した。編集補助謝金については、今後再検討することとした。
- (5) 春の大会の発表申し込み条件および大会発表規程の改正について
- ・春季大会の発表予定者に年会費未納者がいることが報告された。これを踏まえ、応募時の年度の会費が未納の場合、発表応募を受け付けないという方針で大会発表規程の修正案を作成した。
- (6) 聴覚障害を有する会員への支援について
- ・「聴覚障害を有する会員の支援に関する申し合わせ」に音声認識システムによる支援を加える等の修正を行った。また今年度夏期講座においても、同等の支援を行うことを決定した。
- (7) 論文賞・大会発表賞の内規について
- ・「日本言語学会論文賞」規程および「日本言語学会大会発表賞」規程の第3条第2項にある「選考部会の構成と選考の具体的な方法については別途内規を定める」に対応する内規を定めた。
- (8) 学会賞報告の『言語研究』掲載について
- ・『言語研究』に授賞理由を含めた学会賞報告を掲載することを決定した。
- (9) メールマガジンの年間スケジュールについて
- ・昨年度の配信実績を確認し、今年度の配信計画案を承認した。
- (10) 韓国の学会との連携について
- ・Korean Association of Language Sciencesから互いの大会に発表者を派遣するという連携の申し入れがあったが、査読なしの発表を受け入れることが難しいため、連携を見送ることを決定した。
- (11) 2017年度科学研究費補助金研究成果公開促進費(国際情報発信強化)の応募について
- ・今年度も申請することが確認された。申請内容については、継続審議とする。
- (12) 増収と経費削減について

- ・増収の方策として、大会参加費の会員(非会員) 価格の設定、および希望者に対する『言語研究』発送停止の可能性を検討した。また、退会者に対し再入会の呼びかけを行っていくことが確認された。
- (13) シニア会員(会費)の設定について
 - ・財政状況が厳しいため、当面、導入を見送ることを決定した。
- (14) 80周年記念事業について
 - ・「50周年のあゆみ」のホームページ公開、「80周年のあゆみ」の作成等が提案された。記念事業のため、来年度、科学研究費補助金(研究成果公開促進費)を申請することも今後検討することとなった。

——評議員会——

2016年度第1回評議員会

日 時：2016年6月25日(土)10:00～12:30
場 所：慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟 AB 会議室(〒108-8345 東京都港区三田)

出席者：窪蘭晴夫(会長)、加藤重広、佐々木冠、小泉政利、池田 潤、井上 優、上野善道、大堀壽夫、荻野綱男、生越直樹、風間伸次郎、河内一博、菊地康人、北原久嗣、木部暢子、澤田英夫、滝浦真人、長屋尚典、西村義樹、野田尚史、長谷川信子、林 徹、早津恵美子、Prashant Pardeshi、三宅知宏、渡辺 己、北野浩章、呉人 恵、佐久間淳一、玉岡賀津雄、町田 健、有田節子、上田 功、梶 茂樹、定延利之、沈 力、田窪行則、千田俊太郎、藤代 節、由本陽子、吉田和彦、吉田 豊、米田信子、桐生和幸、塚本秀樹、青木博史、江口正、金 智賢、平子達也(以上、評議員48名)

委任状：21名

オブザーバー：久保智之(会計監査委員)、須田孝司(広報委員長)、金城由美子、内藤真帆(以上、事務局委員)

議事に先立ち、会長より開催校である慶應義塾大学に謝意が表された後、大会実行委員長

井上逸兵氏より挨拶が行われた。

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
 - ・今期の組織・役員が資料によって確認された。新編集委員として高野祐二氏が加わったことが報告された。
- (2) 今後の大会開催予定について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第153回大会(2016年秋季大会)：2016年12月3～4日、福岡大学(大会実行委員長：江口正氏)
 - 第154回大会(2017年春季大会)：2017年6月(予定)、首都大学東京(大会実行委員長：小川定義氏)
 - 第155回大会(2017年秋季大会)：2017年11月(予定)、立命館大学衣笠キャンパス(大会実行委員長：有田節子氏)
 - 第156回大会(2018年春季大会)：2018年6月(予定)、東京大学本郷キャンパス(大会実行委員長：西村義樹氏)
 - 第157回大会(2018年秋季大会)：2018年11月(予定)、京都大学
- (3) 2016年度科学研究費研究成果公開促進費について
 - ・研究成果公開促進費(国際情報発信強化)に応募したが、不採択であったことが報告された。
- (4) 2017年度科学研究費補助金研究成果公開促進費の応募について
 - ・今年度も応募することが報告された。
- (5) 各種委員会からの報告
 - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (6) 言語系学会連合からの報告
 - ・今年度言語学会は事務局担当学会として国立国語研究所と共催で、シンポジウム『オノマトベの魅力(仮)』(2017年1月21日(土)学術総合センター)を開催することが報告された。6月19日(日)に意見交換会が行われ、聴覚障害者支援のあり方などについて情報の共有が行われたことが報告された。
- (7) 事務局からの報告
 1. 彙報の電子化とオンライン公開につ

- いて
中西印刷にあるPDFを利用し、個人情報などを消去して公開する。
2. 『言語研究』の公開入札について
昨年度と同様、今年度も実施の予定である。
3. 学術用語集について
国立情報学研究所からJ-GLOBAL (<https://jglobal.jst.go.jp/>)へ移行した。
4. 学会賞報告の『言語研究』掲載について
次号から彙報に独立したページを設け、授賞理由とともに掲載する。
5. メールマガジンの運用状況・計画について
昨年度は11回配信し、今年度は約20回配信する予定である。
6. クレジットカードによる会費納入状況について
今年度よりクレジットカード決済を開始し、6月15日までに約130名の利用があった。
- (8) 日本言語学会大会発表賞の選考結果について
・大会発表賞選考小委員会の推薦に基づいて第151回大会(2015年秋季大会)における大会発表賞が以下のように決定したことが報告された。
窪田悠介氏「言語理論研究における「ツール」としての範疇文法」
- (9) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトの選考結果について
・風間伸次郎氏「世界の言語で読むle petit prince」、井上逸兵氏「少数語者(危機)言語の研究支援と言語の多様性に関する意識啓蒙」の2件の採択が報告された。
- (10) 熊本地震の被災者に対する会費免除について
・平成28年度熊本地震の被災者に対し、5月20日より2017年3月31日まで会費免除申請を受け付けていることが報告された。来年度も実施するが、申請期間は4月～9月とする。会費減免を行う災害

規模については、今後検討を行う。

- (11) 『言語研究』掲載論文のオンライン公開について
・149号より発行後即時オンライン公開となったことが報告された。ただし、一定期間は会員数などへの影響を注視する。
- (12) 日本学術振興会育志賞について
・人文学分野からの受賞者を増やすため、来年度は推薦を行う方針で継続審議とすることが報告された。詳細は常任委員会で検討する。
- (13) 韓国の学会との連携について
・Korean Association of Language Sciences から互いの大会に発表者を派遣するという連携の申し入れがあったが、査読なしの発表を受け入れることが難しいため、連携を見送ることが報告された。
- (14) 各種申し合わせの変更について
・「聴覚障害を有する会員の支援に関する申し合わせ」について、手話通訳の時給算定基準を厳密にし、また支援方法に音声認識システムが追加されたことが報告された。

[審議事項]

- (1) 2015年度決算について【別表1参照】
・2015年度決算案について説明がなされた後、久保智之会計監査委員より適正との報告があり、原案通り承認された。
- (2) 2016年度予算について【別表2参照】
・2016年度予算案について検討を行った結果、原案通り承認された。
- (3) 春季大会の発表申し込み条件および大会発表規程の改正について【別記】
・春の大会応募者に応募時年度の会費納入を義務付けるための大会発表規程の改正案が承認された。
- (4) 夏期講座における聴覚障害を有する会員への支援について
・4月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行された社会状況も踏まえ、大会に準じた支援を行うことが承認された。
- (5) 大会参加費の改定および増収・経費削

減について

- ・非会員に対し、会員とは異なる大会参加費（一般3,000円、学生2,000円）を設定することが承認された。増収の方法として寄付金を募ること、経費節減の方法として希望者に対して『言語研究』の発送を停止することが提案され、常任委員会で詳細を検討することが承認された。
- (6) シニア会員（会費）の設定について
 - ・財政状況が厳しいため、当面、導入を見送ることが承認された。
- (7) その他
 - ・来年度から大会予稿集の印刷が廃止されるため、大会会場でのWi-Fi利用の要望があり、開催校のWi-Fi提供やeduroamの活用が提案された。

——編集委員会——

- (1) 編集委員の追加

2016年1月より高野祐二氏（金城学院大学）を、2016年7月より堤良一氏（岡山大学）を編集委員として追加した。
- (2) 2015年度の集計

2015年度の間、『言語研究』に対する新規投稿が33件あった。また148号、149号で併せて11本の論文が掲載された（うち英文論文が1件）。採用率としては約33%ということになる（ただし、投稿論文と掲載論文の関係は、前年度からの継続や次年度への積み残しが当然あるので、正確に対応するものではない）。

——大会運営委員会——

2016年度第1回大会運営委員会

日時：2016年4月2日（土）11:00～16:00
 場所：慶應義塾大学三田キャンパス北館会議室1
 出席者：佐々木冠（大会運営委員長）、内海敦子、越智正男、佐久間淳一、田村幸誠、千田俊太郎、沈力、塚本秀樹、三宅知宏、渡辺己（以上、大会運営委員）、井上逸兵（大会実行委員長）

[報告事項]

- (1) 第151回大会（名古屋大学）の反省点、およびそれをふまえた取り組みについて、大会運営委員長より報告がなされた。
- (2) 第152回大会（慶應義塾大学）の準備状況について、大会実行委員長の井上逸兵氏より、報告がなされた。

[審議事項]

- (1) 第152回大会における研究発表の採否について審議した。応募用紙の審査結果に基づき、口頭発表56件（応募89件）、ポスター発表0件（応募3件）、ワークショップ3件（応募5件）を採択することとした。
- (2) プログラムの編成を行った。口頭発表は8会場7本（移動10分）とし、各発表の振り分け、会場担当の委員ならびに司会者候補を決定した。
- (3) 大会実行委員長より提案されたシンポジウム・ワークショップ・口頭発表、受付、書店展示、保育室、休憩室、懇親会などの各種会場の設定について検討を行った。

——広報委員会——

- ・学会ホームページの学会からのお知らせ（第152回大会、夏期講座、特集論文など）と学会関連情報（公募情報、研究会情報など）を随時更新した。
- ・過去のコンテンツについて修正を行い、その上で今後の変更箇所について検討を行った。
- ・クレジットカード決済の導入に伴い、「入会等事務手続き」のページを更新した。

——夏期講座運営委員会——

- ・2016年6月24日に大阪大学東京オフィスにて夏期講座委員会を開催し、夏期講座2016の準備状況を確認するとともに、夏期講座2018の開催校、担当者等について検討した。
- ・8月23日（火）から8月28日（日）ま

で大阪大学豊中キャンパスで開催される夏期講座2016の参加申し込み者の中に手話通訳の希望者がいたため、夏期講座委員会、常任委員会、および評議員会で検討した結果、会員に限り、大会における支援に準じて支援を行うこととした。手話通訳者は希望者自らが手配することを原則とする。なお、参加申し込み者がノートテイクを希望した場合も、会員に限り、大会における支援に準じて支援を行うこととした。

——小委員会——

大会発表賞選考小委員会

- ・2015年10月3日(土)に大阪大学において2015年度第3回の会合を開き、第151回大会(名古屋大学)の大会発表賞の審査基準・審査方法を確認し、審査対象となる研究発表と審査手順を決定した。
- ・2015年12月13日(日)に大阪大学において第4回の会合を開き、第151回大会(名古屋大学)の大会発表賞の受賞候補となる研究発表を選考した。選考結果は受賞理由の文案とともに2016年1月24日(日)に会長に報告した。
- ・2015年度日本言語学会大会発表賞(第150回大会、第151回大会)の選考にあたっては、延べ49名の方々に審査員としてご協力いただきました。心よりお礼申し上げます。

青木博史	青柳 宏	有田節子
池田 潤	今仁生美	上山あゆみ
内海敦子	江口 正	越智正男
小野尚之	加藤重広	岸田文隆
北野浩章	桐生和幸	久保智之
呉人 恵	小泉政利	小森淳子
藏藤健雄	斎藤 衛	酒井 弘
佐久間淳一	佐々木冠	定延利之
沈 力	杉岡洋子	鈴木亮子
田窪行則	竹沢幸一	張 麟声
塚本秀樹	中山俊秀	新田哲夫
野瀬昌彦	長谷川信子	長谷川宏

早津恵美子 Prashant PARDESHI
 Timothy VANCE 藤井友比呂
 本間 猛 松本 曜 三宅知宏
 宮地朝子 宮本陽一 矢田部修一
 渡辺 己 (敬称略, 五十音順)

2015年度日本言語学会大会発表賞選考小委員会

井上 優 (委員長)
 青木博史 (150回大会)
 佐々木冠 (151回大会)
 千田俊太郎
 由本陽子

——事務局——

2015年度会計監査

日 時：2016年5月16日(月)15:00～17:00
 場 所：日本言語学会事務支局(中西印刷学会フォーラム)
 出席者：久保智之、田野村忠温(以上会計監査委員)、窪蘭晴夫(会長)、野田尚史(事務局長)、国料尚子(事務支局)

久保智之、田野村忠温両委員により2015年度決算書と関係書類について監査が実施された。

【別表 1】2015 年度日本言語学会決算

自 2015 年 4 月 至 2016 年 3 月

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,599,000	刊 行 費	3,844,584
雑 誌 売 上	1,062,300	発 送 費	387,112
科学研究費補助金	0	事 務 委 託 費	4,406,400
科学研究費補助金利息	0	大 会 関 係 費	4,665,139
預 金 金 利	2,368	評 議 員 会 費	224,986
大会関係収入	2,237,500	常 任 委 員 会 費	863,568
広 告 料	0	編 集 委 員 会 費	747,138
寄 付 金	0	大 会 運 営 委 員 会 費	595,700
雑 益	60,454	広 報 委 員 会 費	282,000
基金から繰入	1,000,000	夏 期 講 座 委 員 会 費	60,740
夏期講座準備金返納	0	事 務 局 費	726,029
		学 会 賞 費	87,411
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 費	349,917
		夏 期 講 座 経 費	0
		言 語 系 学 会 連 合 費	50,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		CIPL 言語学文献一覽編集補助費	100,664
		通 信 費	585,672
		消 耗 品 費	275,842
		雑 費	0
		名 簿 作 成 費	0
		選 挙 関 係 費	0
		税 理 士 顧 問 料	421,200
		学 会 賞 小 委 員 会 費	282,918
		法 人 税	70,000
		予 備 費	0
		(基 金 へ の 繰 入)	800,000
		選 挙 関 係 積 立 金	300,000
		夏 期 講 座 積 立 金	500,000
収 入 合 計	17,961,622	支 出 合 計	19,947,020
前 期 繰 越 金	7,679,262	次 期 繰 越 金	5,693,864
計	25,640,884	計	25,640,884

◇収入内訳（単位：円）

会費

国内通常会員	11,847,000
国内維持会員	60,000
国内学生会員	837,000
国内団体会員	623,000
国内賛助会員	60,000
在外通常会員	168,000
在外学生会員	4,000
合 計	13,599,000

雑誌売上

書店販売	1,042,300
松香堂書店（取り次ぎ業務委託）	985,600
丸善	56,700
その他書店	0
事務局販売	20,000
合 計	1,062,300

科学研究費補助金

0

科学研究費補助金利息

0

預金金利

2,368

大会関係収入

大会参加費	1,982,000
150 回大会	1,106,000
151 回大会	876,000
大会出店料	200,000
150 回大会 1 スペース 2 日（10 社）	100,000
2 スペース 2 日（1 社）	20,000
151 回大会 1 スペース 2 日（6 社）	60,000
2 スペース 2 日（1 社）	20,000
予稿集売上	44,500
148 回大会	1,500
149 回大会	2,500
150 回大会	25,500
151 回大会	15,000
託児関係収入	11,000
合 計	2,237,500

広告料

0

寄付金

0

雑益（前年度未払金清算時の差益）

60,454

基金からの繰入

大会積立金	1,000,000
-------	-----------

◇支出内訳（単位：円）

刊行費

内 訳	148 号	149 号	各号共に 2,300 部 計 (388p.)
	(246p.)	(142p.)	
印刷費	2,410,560	1,399,680	3,810,240
抜刷代	23,976	10,368	34,344
合 計	2,434,536	1,410,048	3,844,584

※割付・校正料は印刷費に含む

発送費

『言語研究』一斉発送料	148 号	209,362
	149 号	177,750
合 計		387,112

事務委託費

2015 年 4 月分～2016 年 3 月分
日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

4,406,400

大会関係費

内 訳	第 150 回	第 151 回	計
プログラム印刷費	108,000	108,000	216,000
ポスター印刷費	112,320	112,320	224,640
予稿集印刷費	864,000	853,200	1,717,200
その他印刷費 / 備品	42,238	84,386	126,624
大会関係発送費	173,710	171,360	345,070
大会費	960,548	466,497	1,427,045
講師謝金等	283,632	81,260	364,892
託児関係費	24,360	46,168	70,528
手話通訳謝礼	51,540	0	51,540
大会実行委員長経費補助	30,000	30,000	60,000
ノートテイキング補助	18,000	22,000	40,000
応募フォーム管理費	10,800	10,800	21,600
合 計	2,679,148	1,985,991	4,665,139

※ポスター印刷費はポスターデザイン代を含む。

評議員会費

会議費（年 2 回）

224,986

常任委員会費

旅費（年2回）	712,974
旅費（学会賞委員会設置WG）	87,480
会議費（年2回）	63,114
合 計	863,568

編集委員会費

旅費（年1回+出張校正, 引継等）	318,828
会議費（年1回）	3,909
英文校閲費	5,241
アルバイト費（編集補助）	360,000
編集ソフト	59,160
合 計	747,138

大会運営委員会費

旅費（年2回）	523,612
会議費（年2回）	27,088
委員長業務補助	45,000
合 計	595,700

広報委員会費

ホームページ保守管理費	162,000
webmaster 経費補助	120,000
合 計	282,000

夏期講座委員会費

旅費	60,740
----	--------

事務局費

旅費（会計監査, 出張費）	110,438
事務局長, 事務局委員活動費	600,000
英文校閲費（ホームページ）	15,591
合 計	726,029

学会賞費

論文賞副賞	50,000
発表賞副賞	30,000
消耗品費	6,219
旅費	1,192
合 計	87,411

多様性プロジェクト（公募型）費

349,917

夏期講座経費	0
言語系学会連合費	50,000
CIPL 負担金	120,000
CIPL 言語学文献一覧編集補助費	100,664
通信費	
切手購入, 通常発送費	54,658
みずほ銀行ビジネス Web 使用料	25,920
会費請求・督促状送料	187,784
カード手数料・送金手数料・残高証明発行手数料	191,842
『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー送料	81,086
大会関係送料 (プログラム, ポスター以外)	44,382
合 計	585,672
消耗品費	
文房具購入費	6,270
振替用紙印刷費	58,239
封筒印刷費	191,160
口座振替依頼書	15,400
口座振替時期変更通知印刷費	4,773
合 計	275,842
雑費	0
名簿作成費	0
選挙関係費	0
税理士顧問料	
顧問料	259,200
年末調整・法定調書作成	32,400
決算料	129,600
合 計	421,200
学会賞小委員会費	
旅費 (年 4 回)	249,040
会議費 (年 2 回)	33,878
合 計	282,918

法人税

法人市民税	50,000
法人府民税	20,000

合 計	70,000
-----	--------

予備費

0

基金への繰入

選挙積立金	300,000
夏期講座積立金	500,000

合 計	800,000
-----	---------

◇ 2015 年度決算 予算・実績対照表

(単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
会 費	13,000,000	13,599,000	599,000
雑 誌 売 上	1,000,000	1,062,300	62,300
科学研究費補助金	0	0	0
科学研究費補助金利息	0	0	0
預 金 利	1,500	2,368	868
大会 関係 収入	1,600,000	2,237,500	637,500
広 告 料	0	0	0
寄 付 金	0	0	0
雑 益	0	60,454	60,454
基金から繰入	1,000,000	1,000,000	0
夏期講座準備金返納	0	0	0
収 入 合 計	16,601,500	17,961,622	1,360,122
前 期 繰 越 金	7,679,262	7,679,262	0
合 計	24,280,762	25,640,884	1,360,122

(単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
刊 行 費	4,500,000	3,844,584	655,416
発 送 費	600,000	387,112	212,888
事 務 委 託 費	4,406,400	4,406,400	0
大会 関係 費	5,400,000	4,665,139	734,861
評 議 員 会 費	300,000	224,986	75,014
常 任 委 員 会 費	800,000	863,568	△ 63,568
編 集 委 員 会 費	900,000	747,138	152,862
大会運営委員会費	900,000	595,700	304,300
広 報 委 員 会 費	400,000	282,000	118,000
夏期講座委員会費	200,000	60,740	139,260
事 務 局 費	900,000	726,029	173,971
学 会 賞 費	300,000	87,411	212,589
多様性プロジェクト(公募型)費	500,000	349,917	150,083
夏 期 講 座 経 費	0	0	0
言語系学会連合費	70,000	50,000	20,000
C I P L 負 担 金	120,000	120,000	0
C I P L 言語学文献一覧編集補助費	200,000	100,664	99,336
通 信 費	700,000	585,672	114,328
消 耗 品 費	400,000	275,842	124,158
雑 費	40,000	0	40,000
名 簿 作 成 費	0	0	0
選 挙 関 係 費	0	0	0
税 理 士 顧 問 料	450,000	421,200	28,800
学会賞小委員会費	400,000	282,918	117,082
法 人 税	70,000	70,000	0
予 備 費	924,362	0	924,362
(基金への繰入)			
名簿作成積立金	0	0	0
選挙関係積立金	300,000	300,000	0
多様性プロジェクト(公募型)積立金	0	0	0
夏期講座積立金	500,000	500,000	0
支 出 合 計	24,280,762	19,947,020	4,333,742
次 期 繰 越 金	0	5,693,864	△ 5,693,864
合 計	24,280,762	25,640,884	△ 1,360,122

◇資産勘定

2016年3月31日(単位:円)

借方	金額	貸方	金額
事務支局		前受会費	
現金	156,578	国内通常	228,000
みずほ銀行口座	6,205,515	国内学生	96,000
郵便振替口座	956,061	国内団体	0
科研費口座	0	在外個人	7,000
カード	29,000	在外学生	4,000
夏期講座委員会口座	500,315	前受購読料	144,900
未収金*	1,166,240	未払金**	2,836,882
		源泉税預り金	3,063
		次期繰越	5,693,864
計	9,013,709	計	9,013,709

*未収金は当該年度内の収入の回収が間に合わなかった場合の科目。
2015年度決算の未収金の内訳は以下の通り。

内 訳	金 額
第151回大会・評議員会残金	51,357
多様性プロジェクト残金	150,083
雑誌売上(松香堂分)	954,800
大会出店料	10,000
合 計	1,166,240

**未払金は当該年度内の支出が間に合わなかった場合の科目。
2015年度決算の未払金の内訳は次頁の通り。

内 訳	金 額
事務委託費 2～3 月	734,400
HP 2015 年度	162,000
会費請求	4,239
税理士顧問料 1～3 月	64,800
税理士決算料	129,600
法人税	70,000
発送用角 3 封筒	38,880
『言語研究』 149 号印刷代	1,399,680
『言語研究』 149 号抜刷代	10,368
『言語研究』 149 号発送費	177,750
大会発表応募フォーム	21,600
口座振替日変更のご案内	4,773
『言語研究』 147 号抜刷代	18,792
合計	2,836,882

◇基金 決算

基金 損益計算書

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
期首特別会計（前期繰越）	11,103,476	一般会計へ支出	1,000,000
一般会計から繰入	800,000		
定期預金金利	780		
収入合計	11,904,256	支出合計	1,000,000
		次期繰越金	10,904,256
計	11,904,256	計	11,904,256

基金 資産勘定

2016年3月31日 (単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
みずほ銀行定期預金口座	7,100,000	積立金	10,904,256
京都銀行定期預金口座	3,804,256		
計	10,904,256	計	10,904,256

○基金内訳（目的別）

2016年3月31日 (単位：円)

記念大会積立金	2,400,406
夏期講座積立金	3,700,567
危機言語プロジェクト積立金	702,877
e-ジャーナル積立金	2,500,406
言語学普及積立金	500,000
多様性プロジェクト（公募型）積立金	800,000
選挙積立金	300,000

計

10,904,256

○基金内訳（銀行別）		2016年3月31日（単位：円）	
銀行名	預かり番号	名目	金額
京都銀行	003	記念大会積立金	1,000,406
みずほ銀行	038	〃	1,200,000
みずほ銀行	060	〃	200,000
みずほ銀行	057	夏期講座積立金	500,000
みずほ銀行	051	〃	700,000
みずほ銀行	035	〃	600,000
みずほ銀行	062	〃	500,000
京都銀行	005	〃	1,400,567
みずほ銀行	039	危機言語プロジェクト積立金	300,000
京都銀行	001	〃	402,877
京都銀行	004	e-ジャーナル積立金	1,000,406
みずほ銀行	044	〃	500,000
みずほ銀行	037	〃	1,000,000
みずほ銀行	047	言語学普及積立金	500,000
みずほ銀行	050	多様性プロジェクト（公募型）積立金	300,000
みずほ銀行	059	〃	500,000
みずほ銀行	061	選挙積立金	300,000
計			10,904,256

【別表 2】2016 年度日本語学会予算

自 2016 年 4 月 至 2017 年 3 月

(単位：円)

取 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	12,700,000	刊 行 費	4,000,000
雑 誌 売 上	1,000,000	発 送 費	600,000
科学研究費補助金	0	事 務 委 託 費	4,406,400
科学研究費補助金利息	0	大 会 関 係 費	4,300,000
預 金 金 利	1,500	評 議 員 会 費	300,000
大会関係収入	2,000,000	常 任 委 員 会 費	900,000
広 告 料	0	編 集 委 員 会 費	800,000
寄 付 金	0	大会運営委員会費	800,000
雑 益	0	広 報 委 員 会 費	300,000
基金からの繰り入れ	1,000,000	夏期講座委員会費	100,000
夏期講座準備費返納	0	学会賞選考委員会費	700,000
		事 務 局 費	800,000
		学 会 賞 費	200,000
		多様性プロジェクト(公募型)費	500,000
		夏期講座経費	1,000,000
		言語系学会連合費	50,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		CIPL 言語学文献一覧編集補助	200,000
		通 信 費	1,000,000
		消 耗 品 費	350,000
		雑 費	0
		名 簿 作 成 費	0
		選 挙 関 係 費	0
		税 理 士 顧 問 料	450,000
		学 会 賞 小 委 員 会 費	
		法 人 税	70,000
		予 備 費	148,964
		(基金への繰入)	
		名簿作成積立金	0
		選挙関係積立金	300,000
		多様性プロジェクト(公募型)積立金	0
		夏期講座積立金	0
		基金預け替え	0
取 入 合 計	16,701,500	支 出 合 計	22,395,364
前 期 繰 越 金	5,693,864	収支差額(次期繰越金)	0
合 計	22,395,364	合 計	22,395,364

【別記】日本言語学会大会発表規程の変更

○日本言語学会 大会発表規程

(旧)

1. 日本言語学会（以下「本学会」）の大会発表は、(1) 口頭発表、(2) ポスター発表、(3) ワークショップの3種類を設ける。
2. 本学会の会員は、大会発表に応募することができる。共同発表は、筆頭発表者が会員であれば応募できる。ワークショップは、企画者と司会者が会員であれば応募できる。
3. 発表内容は、未発表であり、かつ発表応募時において本学会の大会以外の発表応募や投稿を行っていないものに限る。採用通知後にこの条件が満たされていないことが判明した場合は、採用を取り消す。また、大会予稿集掲載後に発表が取り消された大会予稿集原稿は、大会予稿集から削除する。
4. 大会発表の応募および大会における発表は、大会運営委員会が定める大会発表要項に基づいて行う。
5. 大会発表の採否は大会運営委員会が決定する。
6. 学会ホームページおよび『言語研究』掲載の大会発表要旨は、提出された時点で発表者全員が「日本言語学会著作物取扱規程」を承諾したものとする。

(2015/11/28 改訂)

(新)

1. 日本言語学会（以下「本学会」）の大会発表は、(1) 口頭発表、(2) ポスター発表、(3) ワークショップの3種類を設ける。
2. 本学会の会員は、大会発表に応募することができる。共同発表は、筆頭発表者が会員であれば応募できる。ワークショップは、企画者と司会者が会員であれば応募できる。
3. 大会発表に応募する際に、応募時の年度までの会費が未納の場合は発表応募を受け付けない。
4. 発表内容は、未発表であり、かつ発表応募時において本学会の大会以外の発表応募や投稿を行っていないものに限る。採用通知後にこの条件が満たされていないことが判明した場合は、採用を取り消す。また、大会予稿集掲載後に発表が取り消された大会予稿集原稿は、大会予稿集から削除する。
5. 大会発表の応募および大会における発表は、大会運営委員会が定める大会発表要項に基づいて行う。
6. 大会発表の採否は大会運営委員会が決定する。
7. 学会ホームページおよび『言語研究』掲載の大会発表要旨は、提出された時点で発表者全員が「日本言語学会著作物取扱規程」を承諾したものとする。

(2015年11月28日修正案可決)

(2016年6月25日修正案可決)

第 152 回大会

期日 2016 年 6 月 25 日 (土)・6 月 26 日 (日)

会場 慶應義塾大学

公開シンポジウム 6 月 26 日 (日) 13:40 ~ 16:50 (西校舎 1 階 517 教室)

「メディア翻訳の言語学」

企画・司会 井上 逸兵

- | | | |
|-------|--|----------|
| (S 1) | グローバル社会における紛争の表象とニュース翻訳：
メディア談話の批判的分析 | 坪井 睦子 |
| (S 2) | スポーツ報道におけるメディア翻訳 | 多々良直弘 |
| (S 3) | ゲームの海外移植：文字の訳から「体験」の訳へ | オヘイガン 統子 |
| (S 4) | ポライトネス理論から見る日本映画翻訳のローカル化とグローバ
ル化 | 井上 逸兵 |

口頭発表

—第 1 日 (6 月 25 日 (土)) 13:00 ~ 17:40—

◦ A 会場

- | | | | |
|-------|---------------|--|---|
| (A 1) | 13:00 ~ | Japanese derivational morphology and root-based syntax | Brent DE CHENE |
| (A 2) | 13:40 ~ | Saying in a hidden way | Hiroaki SAITO |
| (A 3) | 14:20 ~ | On the particle Zhi in Old Chinese | Yong-Xin GAO
Megumi HASEBE
Ying Bi
Can WANG
Wen-Qi REN
Chun-Zhu HUO
Michael SEVIER
Hideki MAKI |
| (A 4) | (発表者の都合により中止) | | |
| (A 5) | 15:50 ~ | 中国語の正反疑問文に見られる干渉効果について | 石井 友美
伊藤さとみ |
| (A 6) | 16:30 ~ | 動詞重複を伴う中国語の動詞 (句) 移動について | 星 英仁
胡 亜敏 |
| (A 7) | 17:10 ~ | 漢語福清方言の受身構文に関する一考察 | 陳 学雄 |

◦ B 会場

- | | | | |
|-------|---------|-----------------------------------|----------------|
| (B 1) | 13:00 ~ | 日本語壁塗り構文「塗る」の分析 | 深谷 修代 |
| (B 2) | 13:40 ~ | 目的語主格構文と能格構文の平行性 | 菅野 悟 |
| (B 3) | 14:20 ~ | いわゆるラ抜き言葉の形成における形態統語的制約につ
いて | 高橋 英也 |
| (B 4) | 15:00 ~ | 日本語の命令文における主題化空主語の認可について | 江村 健介
野口 雄矢 |
| (B 5) | 15:50 ~ | 日本語における無助詞の機能と私的・公的表現性 | 山田 祥一
並木翔太郎 |
| (B 6) | 16:30 ~ | 日本語の新聞の論説記事と投書文におけるメタディス
コース研究 | 金沢じゅん |
| (B 7) | 17:10 ~ | 修道院手話「手まね」の疑問表現 | 柴田香奈子 |

。C 会場

- (C 1) 13:00 ~ フランス人日本語学習者における「ウ」の発音について
ギユモ・セレスト
- (C 2) 13:40 ~ 日本語母語話者と日英バイリンガル児童のモダリティ習得について
甲斐ますみ
- (C 3) 14:20 ~ 日本人英語学習者によるガーデンパス文の処理—自己ベース読文実験による検討—
津村 早紀
峰見 一輝
矢野 雅貴
- (C 4) 15:00 ~ 日本人学習者による英語 filler-gap 依存関係の処理—自己ベース読文実験による検討—
峰見 一輝
津村 早紀
矢野 雅貴
- (C 5) 15:50 ~ 日本語を母語とする子供の条件文における部分否定の解釈
杉浦 航
島田 博行
- (C 6) 16:30 ~ 依頼行為におけるアメリカ英語での Could・Would と会話の背景の関わり
テーボルト ジョセフ ロバート
- (C 7) 17:10 ~ 多義動詞「つながる」の意味分析—「因果関係用法」に注目した通時変化の考察—
辛 蒙

。D 会場

- (D 1) 13:00 ~ 短縮語の形成方法に観察される世代差について
文 昶允
- (D 2) 13:40 ~ 語形成に見られる機能的動機付け—指定的特徴を持つ複合語を事例として—
五十嵐啓太
納谷 亮平
- (D 3) 14:20 ~ 北海道方言「ラサル」の形態統語論
大野 公裕
- (D 4) 15:00 ~ 南琉球宮古語池間（西原）方言における焦点助詞 du と述語動詞モダリティの相互関係
林 由華
- (D 5) 15:50 ~ ケドとノダの共起関係—ケドとノダケドの相違点について—
池 玫京
- (D 6) 16:30 ~ 補助動詞「ておく」+デオンティックモダリティにおける事態の未完了性
陸田 利光
- (D 7) 17:10 ~ 近代日本語における依存構文の発達—間接疑問構文の客観化を契機として—
志波 彩子

。E 会場

- (E 1) 13:00 ~ 日本語存在表現における場所標示格（所格）の先行性と脳内視覚認知機構との関係仮説
廉田 浩
- (E 2) 13:40 ~ 脳波計測による語用論的推論の時系列と心の理論との関わりを検討
時本 真吾
時本楠緒子
宮岡 弥生
- (E 3) 14:20 ~ 感嘆文における否定の鳥再考
本多 正敏
大久保龍寛
- (E 4) 15:00 ~ 動詞句削除：2種類の be に基づく分析
木村 宣美
- (E 5) 15:50 ~ underestimate とは言っても underheat とは言わないのはなぜか—動詞接頭辞 over- と under- の対比から—
野中 大輔
堀内ふみ野
- (E 6) 16:30 ~ 英語命令文における主語の随意性について
鈴木 智也
小町 将之

(E 7)	17:10 ~	多重 wh 疑問文のペアリスト解釈とスルーシング	水野 輝之 アーリーワイン マイケル芳貴
。 F 会場			
(F 1)	13:00 ~	インドネシア語・マレー語における di- 構文 (いわゆる受動文) の機能: 標準/口語インドネシア語とスンバワ・マレーの eventive 節からの考察	塩原 朝子
(F 2)	13:40 ~	受動文の接語重複分析再考: 古典マレー語の di- 受動文	野元 裕樹
(F 3)	14:20 ~	ポポロカ語テマラカユカ方言における 2 種の名詞複合	中本 舜
(F 4)	15:00 ~	カムサ語の動詞における人称標示—肯定形の場合—	蝦名 大助
(F 5)	15:50 ~	ヒッタイト語の使役機能を持つ接辞 -nu- と通時的変化	大亦菜々恵
(F 6)	16:30 ~	古アイルランド語の分裂文における鼻音化関係活用について	内山祐里奈
(F 7)	17:10 ~	アイルランド語の 'be done' 構文と動作主人称	山田 怜央
。 G 会場			
(G 1)	13:00 ~	韓国語釜山方言の接尾辞による派生語形成のアクセント	姜 英淑
(G 2)	13:40 ~	韓国語光州方言の外来語アクセント	李 文淑
(G 3)	14:20 ~	東京方言における無標音調の実現パターンと句頭のピッチ上昇の要因	荒羽 善成
(G 4)	15:00 ~	韻律と情報構造, 介入効果—佐賀方言と東京方言の対照より—	日高 俊夫
(G 5)	15:50 ~	琉球沖永良部国頭方言の疑問文イントネーション	横山 (徳永) 晶子
(G 6)	16:30 ~	複合名詞アクセントに見る福井県あわら市北潟方言と高知市方言の対応関係	松倉 昂平
(G 7)	17:10 ~	外来語における双方向の有声性変異	西村 康平
。 H 会場			
(H 1)	13:00 ~	ジンポー語における人称階層に基づく動詞の一致	倉部 慶太
(H 2)	13:40 ~	セデック語バラン方言における語末 uy の交替	落合いずみ
(H 3)	14:20 ~	バスク語アスペイティア方言の「後置詞に見える形態素」と「後置詞」の区別	吉田 浩美
(H 4)	15:00 ~	アルタイ諸語, 朝鮮語と日本語における動詞「ナル」の文法化の展開	山崎 雅人
(H 5)	15:50 ~	ブリヤート語未来分詞の文末用法: 分詞の「再名詞化」によるモダリティ表現	山越 康裕
(H 6)	16:30 ~	モンゴル語の係り結び	山田 洋平
(H 7)	17:10 ~	モンゴル語ハルハ方言の母音の長さ	植田 尚樹

ワークショップ

—第 2 日 (6 月 26 日 (日)) 10:00 ~ 12:00—

ワークショップ 1

(W 1)	日本語の空項: 理論的変遷と今後の展望	企画・司会: 坂本 祐太
(W 1-1)	序論	坂本 祐太

- | | | |
|---------|--------------|-------|
| (W 1-2) | 意味論的空代名詞分析 | 藏藤 健雄 |
| (W 1-3) | 動詞残余型動詞句削除分析 | 船越 健志 |
| (W 1-4) | 項省略分析 | 坂本 祐太 |

ワークショップ 2

- | | | |
|---------|---|---|
| (W 2) | 理論言語学と認知神経科学：言語理論はどうすれば脳科学実験によって確かめられるのか？ | 企画・司会：大関 洋平
コメンテータ：酒井 弘
小泉 政利
幕内 充 |
| (W 2-1) | 導入：言語の認知神経科学 | 酒井 弘 |
| (W 2-2) | 機能的磁気共鳴画像法 (fMRI) と統語処理の神経基盤 | 太田 真理 |
| (W 2-3) | 脳波計 (EEG) と予測的統語処理の神経基盤 | 門馬 将太 |
| (W 2-4) | 脳磁計 (MEG) と形態統語処理の神経基盤 | 大関 洋平 |

ワークショップ 3

- | | | |
|---------|--|-----------------------------|
| (W 3) | 複他動詞構文 (Ditransitive construction) とその周辺に存在する問題点—Malchukov et al. (2010) の枠組みをもとにして— | 企画・司会：山田 洋平
コメンテータ：風間伸次郎 |
| (W 3-1) | 意味地図 (semantic map) | 山田 洋平
山田 怜央 |
| (W 3-2) | ラワン語の対格小辞の機能 | 大西 秀幸 |
| (W 3-3) | フィジー語の複他動詞と投擲動詞 | 岡本 進 |

◇退 会

国内通常会員：74名
国内学生会員：25名
在外通常会員：4名
国内団体会員：4名
107名

◇入 会

国内通常会員：31名
在外通常会員：4名
国内学生会員：59名
在外学生会員：2名
96名



日本語学会学会賞報告

第151回大会（2015年秋季，名古屋大学）の大会発表賞（1件）

・窪田悠介氏

「言語理論研究における「ツール」としての範疇文法」

本発表は、理論言語学において主流である移動に基づく分析が、発表者が構築している「ハイブリッド範疇文法」によって計算機で解析可能な形に書き換えられることを示し、この理論が言語研究の有効なツールとなることを主張したものである。理論言語学と計算言語学をつなぐ意欲的な試みであり、発表のしかた、質疑応答も適切であった。

2016 年度役員

【会長】

窪蘭晴夫

【顧問】

井上和子, 梅田博之, 上野善道, 影山太郎,
梶茂樹, 国広哲弥, 柴谷方良, 早田輝洋,
松本克己

【常任委員】

有田節子, 井上優, 上山あゆみ, 加藤重広,
小泉政利, 小林正人, 斎藤衛, 玉岡賀津雄,
吉田和彦

【事務局】

野田尚史(事務局長), 金城由美子, 内藤真帆

【評議員 (71名)】

[北海道]加藤重広, 佐々木冠, 津曲敏郎[東北]
小野尚之, 小泉政利, 後藤斉 [関東] 池田潤,
井上優, 上野善道, 大津由紀雄, 大堀壽夫,
荻野綱男, 生越直樹, 尾上圭介, 影山太郎,
風間伸次郎, 河内一博, 菊地康人, 北原久嗣,
木部暢子, 澤田英夫, 滝浦真人, 角田太作,
長屋尚典, 西村義樹, 野田尚史, 長谷川信子,
林 徹, 早津恵美子, Prashant Pardeshi, 福井
直樹, 松森晶子, 峰岸真琴, 三宅知宏, 鷺尾
龍一, 渡辺己 [中部] 北野浩章, 呉人恵,
斎藤衛, 佐久間淳一, 澤田治美, 玉岡賀津雄,
新田哲夫, 堀江薫, 町田健 [近畿] 有田節子,
上田功, 梶茂樹, 金水敏, 工藤真由美, 定延
利之, 沈 力, 田窪行則, 千田俊太郎, 藤代
節, 益岡隆志, 松本曜, 由本陽子, 吉田和彦,
吉田豊, 米田信子 [中国・四国] 桐生和幸,
酒井弘, 塚本秀樹, 辻星児, 宮崎和人 [九州・
沖縄] 青木博史, 江口正, 狩俣繁久, 金智賢,
平子達也

【編集委員会】

金水敏 (委員長), 家入葉子, 上田功, 江口正,
風間伸次郎, 酒井弘, 高野祐二, 滝浦真人,
堤良一, 松森晶子, 村杉恵子, 吉村公宏,
米田信子

【特別編集委員】

Bjarke Frellesvig, Larry Hyman, Juha Janhunen,
金周源 (Kim Juwon), Christine Lamarre, 富岡
諭 (Satoshi Tomioka)

【大会運営委員会】

佐々木冠 (委員長), 内海敦子, 越智正男,
小野寺典子, 佐久間淳一, 沈 力, 田村幸誠,
千田俊太郎, 塚本秀樹, 新田哲夫, 三宅知宏,
渡辺己

【広報委員会】

中谷健太郎 (委員長), 上山あゆみ, 北原
真冬 (英語ページ webmaster), 呉人恵 (危機
言語担当), 堤良一, 原田なをみ, 那須昭夫
(日本語ページ webmaster)

【夏期講座委員会】

佐久間淳一 (委員長), 小野創, 下地理則,
本多啓, 宮本陽一, 渡辺己

【学会賞選考委員会】

斎藤衛 (委員長), 呉人恵, 小泉政利, 滝浦真人,
玉岡賀津雄, 早津恵美子, 吉田和彦

【会計監査委員会】

久保智之, 田野村忠温